

実務家教員授業科目一覧

キャンパス	学部	区分	科目名	単位数	担当者名	授業概要
目白	家政学部 文学部 人間社会学部 理学部 国際文化学部 建築デザイン学部 食科学部	J W U キ ャ リ ア 科 目	ライフプランとキャリアデザイン	2	高橋美紀	ライフプランやキャリアデザインを設計するためには、社会環境や企業に関する理解が欠かせない。社会や企業において女性がどのような状況に置かれているか、大学時代からその現状や背景を理解することが重要である。授業では、女性のライフプランやキャリアデザインに関連させながら、経済社会や企業組織の仕組み、現状や課題について、ゲストスピーカーとして外部から招く専門家及び卒業生の講話や、授業担当者自身の経験（一般企業勤務や、中小企業診断士・社会保険労務士としての企業支援経験）も交えながら解説する。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
			女性と職業	2	鈴木陽子	本授業は、現代女性の職業の実態をさまざまな具体例を通して学び、働く意欲と勇気を得ることを目標とする。各界で多彩に活躍している各学科の先輩をゲストスピーカーとして招聘し、職業選択やキャリアについて自らの指針を持つことができるよう、さまざまな分野での仕事のあり方を実際に見聞する機会を提供する。授業の最終回に、授業全体の振り返りと講評を行う。なお、授業担当者は、民間シンクタンクにて、主に官公庁や自治体等の受託調査に携わっている。少子高齢化施策（子育て支援、高齢者介護等）、両立支援（子育て、介護等）、ワーク・ライフ・バランス、共生社会等に関わる政策テーマに取り組んでいる。※「実務経験のある教員等による授業科目」対象
			仕事・結婚・わたし	2	高井彩名	近年、アイデンティティは関係性の中で構築されると言われている。特に女性はライフサイクルを考えるとときに結婚、出産、介護など他者との関わりを避けて通れない。授業では、自分、家族、社会というシステムについて説明する。自分自身を捉える視点を持ち、家族ライフサイクルについて考えることによって、今後の人生で生じる様々なことに対処できる力を養う。授業担当者は、臨床心理士・公認心理師として、大学の学生相談を中心に活動。その他、精神科クリニックや、スクールカウンセラーなどとしても実務経験あり。最近の研究テーマは「好きなものを語ることの心理的作用について」などである。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
					北島歩美	近年、アイデンティティは関係性の中で構築されると言われている。特に女性はライフサイクルを考えるとときに結婚、出産、介護など他者との関わりを避けて通れない。授業では、自分、家族、社会というシステムについて説明する。自分自身を捉える視点を持ち、家族ライフサイクルについて考えることによって、今後の人生で生じる様々なことに対処できる力を養う。授業担当者は、臨床心理士・公認心理師・家族心理士として、大学の学生相談を中心として30年ほど活動。その他、産業カウンセリング、私設のカウンセリングルームでも実務経験あり。専門はアタッチメント理論と家族療法である。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
			女性と身体	2	鈴木幸子	女性が生き生きと自分の人生を歩むためには、自分のからだの主人公としてからだとの付き合い方を学び、コントロールしていくことが求められます。産む／産まないに限らず、人生における多様な選択が可能になった現在、健康な心身と生活の基盤を持っていることは強みになります。この科目ではライフステージごとの健康課題とそのケアについて学び、とくに性と生殖に関する健康と権利について自分事として考え、選択できる力を養います。助産師として出産や女性の生涯を通じた健康支援に携わってきた教員が解説、問題提起を行います。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
					小笹由香／辻美千子／新田真弓	女性の体や心は、人生の中で様々な変化をすることがあります。それらを受けとめ、受け入れ、女性として生きていくことがとても大切です。この授業では、医療者である助産師・看護師・歯科医師・認定遺伝カウンセラーを中心に、患者や家族の立場にも言及しながら多様な立場から、思春期・妊娠・出産・更年期・高齢期の女性の一生を通じて起こる心身面での課題とそのケアについて解説します。特に、現代若年女性の問題や女性特有の疾患、妊娠や出産、そして出生前診断などの生命倫理に関わる問題など、女性として生きていく人生に役立つことを取り上げます。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
			ライフステージと法	2	柳原由以／大沼宗範	人が生きていくうえで一生の間に出会うであろう法律問題（就職・結婚・出産・離婚・相続・消費者問題等）の基礎知識を身に着けることを目的とする。いくつかの具体的な事例の紹介や、その対応先の議論や解説を行う。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
			社会に出るための自己表現	2	橋本大輔	社会に出るって、ワクワクする？ それとも不安？社会人になり20数年、働く環境の変化を肌で感じています。多様化、短サイクル化、デジタル化が進む中、社会全体が試行錯誤を繰り返しながら前進しています。その影響で、新社会人に求められるスキルや価値観も大きく変化しています。これまで以上に広い教養と高い専門性が求められ、国際的視野、環境意識、地域社会、持続性、ライフワークバランスといったキーワードがますます重要になっています。 また、起業やフリーランスなど、従来の「組織に属する」働き方とは異なるキャリアも一般的になりつつあります。こうした変化の中で、社会に出ることへの不安を減らし、『社会に出る楽しさ』を感じてもらうことがこの授業の目的です。情報があふれる時代ですが、本質的にはいつの時代も基本原則は変わりません。一人ひとりが「自分らしさ」を磨き、前向きなスタートを切るためのきっかけを提供したいと考えています。本授業では、「自分を知る」「社会を知る」という2つの軸を中心に構成します。様々な業界の社会人をゲストとして招き、「教わる」ことをきっかけに「学ぶ」力を育てていきます。例えば、起業家・フリーランス・大手企業のリーダーなど、多様な働き方をする人々から直接話を聞く機会を設けます。単なる知識のインプットではなく、新しい視点を得て自分の言葉で伝えられる力を養うことを重視します。この授業が終わる頃には社会の本質を見極める力を身につけ、面接で自信を持って話せるようになり、自分の言葉で将来や自分自身を描けるようになることを目指します。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
					砂子一雄	40年近くの広告代理店勤務と現在も広告関係の会社を経営しているコミュニケーションのプロとして、実践的な「伝え方」を一定の方法論や各種メソッドを使いながら紹介。なるべく具体的事例と演習を交えた講義で、少しでも受講者のコミュニケーション能力向上に寄与していきたい。 また就職活動や実社会で直面するであろう自己プレゼンテーションなどに役立つ現場情報や効果的アピール方法も随時紹介し、キャリア形成に役立つ授業を目指す。当授業は前期・後期あるが、授業内容は同じである。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
					尾方僚	＊社会に出るための自己表現3,4(前期) 7,8(後期) は同内容です。【目的】社会生活を送る上で必要不可欠であるコミュニケーションスキル。コミュニケーションからプレゼンテーションという流れで実社会に出るために必要な「表現する方法」を「バーバルコミュニケーション」（言語コミュニケーション）、「ノンバーバルコミュニケーション」（非言語コミュニケーション）、アクティブリスニングなどにわけ実習を通し自己表現を学ぶ。また実習ではディスカッションやグループワークも。これらを通し社会で必要なチームワーク、タイムマネジメントなども理解することができる。企業、業界の仕組みも実習を通して理解することができる。＜社会＞に出るための とタイトルがついている通り、＜社会＞の1員であることを認識し、卒業後関わる社会がどんなものかを理解する。クラスの仲間たちとワークショップ「情報共有」をし理解を深めることができる。クラスのメンバーとワークショップやディスカッションを通して経済、社会の知識を深めることができる。ワークショップの中で常にミクロ、マクロの視点でみることをテーマとし、実践的視野を広げ、成長することができる。【内容】企業研修（面接官トレーニング）などで使用しているものを元にした実習がメインの授業。自己を表現する（PRする）ためにはどんなことが必要か、また自身に対して相手がどんな印象をもつかなどを実際に体験する中で「気づき」や「発見」を促す。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
			現代ビジネスと起業	2	奥山睦	・日本経済の現状と労働環境について考える。 ・世界的な働き方の潮流を見つめながら、女性のキャリア形成について考える。 ・パンデミックや戦争、自然災害等の影響から世界情勢を俯瞰的に見つめ、持続可能な社会の在り方について考える。 「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
			インターンシップⅠ	1	澤田美砂子／大場昌子／村岡梓／周燕飛	就業体験を通して、その仕事に就く能力が自らに備わっているかどうか（自らがその仕事で通用するかどうか）を見極め、自己の適性や可能性を探るきっかけとなるようなインターンシップに参加する。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
			インターンシップⅡ	2	澤田美砂子／大場昌子／村岡梓／周燕飛	就業体験を通して、その仕事に就く能力が自らに備わっているかどうか（自らがその仕事で通用するかどうか）を見極め、自己の適性や可能性を探るきっかけとなるようなインターンシップに参加する。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目

実務家教員授業科目一覧

キャンパス	学部	区分	科目名	単位数	担当者名	授業概要
目白	家政学部 文学部 人間社会学部 理学部 国際文化学部 建築デザイン学部 食科学部	J W U 社 会 連 携 科 目	社会課題とNPO・NGO	2	大池絵梨香	社会は多様な課題に満ちている。教育、福祉、環境保護、医療、貧困対策、人権保護など、さまざまな分野において国や行政ができることが限られ、日本全体や地域（強いては世界も）で様々な課題が山積している。世界を見てみると紛争が起きない日はなく、国家間・各国内でも分断が進み、積み上げてきた秩序が崩れている。日本では、超高齢社会がもたらす懸念されている「2025年問題」を目前にし、社会保障費の増大が加速し労働力不足が深刻化している。こうした社会情勢による影響を受けるのは、いつも弱者である。コロナ禍でも、非正規雇用者、シングルマザー、こどもなど、社会の弱いところにしわ寄せが現れた。また、日本社会は人権では後進国である。特に、女性を取り巻く環境は厳しい。女性の活躍指数では最下位に近く、ジェンダーやLGBTQ等の課題は、折に触れ社会問題となり噴出する。それらの社会課題に取り組む市民の思いを力にする目的で、制度化されたのが非営利活動促進法人（通称 NPO）である。NPOやNGOは地域社会の課題に気づいた市民が集まり、解決に向けて取り組むための仕組みである。意思決定のスピードが速く、柔軟に対応できるので、行政機関や企業が動きにくい問題に対して迅速に対応することができる。また、非営利であることから多様な人々の共感を呼びやすく、地域ニーズを深く理解しながら現場に寄り添った効果的な支援が可能である。NPO法ができて20年を超え、一定の市民権を得ている一方で、活動実態は十分に認知されていない。複雑化する社会課題と多岐にわたる領域において、社会課題解決の担い手はNPOだけでなく、マルチセクターの役割になりつつあり、NPOはそのなかでも協働・共創を生み出すプレイヤーとして期待されている。そこで、この授業では、NPOについての基礎知識を共有するとともに、NPOは何のために、何を指して活動しているのかを学ぶ。SDGsなどの進展で、企業の役割も大きくなってきているので、どう多様なセクターと連携して社会課題を解決しようとしているのかも共有したい。具体的な活動については、できるだけ現場感をもって、社会課題の解決の仕方を伝えるために、NPOや社会課題解決のスタッフをゲストとしてお招きし、議論する場を設ける。NPOやNGOはどうやって社会課題に気づき、自ら動き、共感する人を増やし、活動を展開させていくかを学ぶ。NPOやNGOについての知識を得ることが目的ではなく、自分自身で課題に気づき、考え、課題を解決するためには何をすればいいのか、行動するきっかけを掴んでもらえればと思っています。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
			企業と社会連携	2	田村太郎／額田春華／井上洋	経済のグローバル化や気候変動の進展に伴い、これまでのアプローチでは持続可能な社会の維持が困難な状況が生じている。これまでは行政や非営利組織の役割とされてきた「社会課題の解決」において、企業に期待される役割が大きく変化している。この授業ではこうした社会の変化を俯瞰しながら、変化する社会課題や解決手法、担い手のありようについて基礎的な知識を身につけるとともに、企業に求められる役割やビジネスによる社会課題の解決に焦点を当て、具体的な解決手法の考え方を学ぶ。担当する教員3名はそれぞれに大企業・中小企業・ソーシャルアントレプレナーによる課題解決に深く携わっており、理論だけでなく実践に必要な視点と行動力が持てるよう、グループ演習なども取り入れながら授業を進行していく。（「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目）
			社会連携を学ぶB	2	田井中慎	企業や自治体等では、組織内や業務上の諸課題の見直し、新規事業の提案などの場面で、組織外にコンサルティングを依頼することが多く見られるが、大学のような当該業務や営利と無関係な異なる組織と連携し、組織の課題解決を目指すという試みが多く行われている。これを一般的に、大学における「社会連携事業」「社会連携活動」と呼ぶが、本授業では、地域活性化・SDGs（持続可能な開発目標）をキーワードとし、実際の企業を対象に社会連携活動やその基礎的知識についての理解、課題発見、課題解決の手法や具体例を通し、現在の社会連携のあり方を考え、実際に企画立案・実施を通じ実践的な学びとする。（「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目）
			課題解決型ワークショップを用いた企画開発	2	中西裕二／山下雅洋	本授業は、株式会社読売広告社の寄附講座として行われるものである。読売広告社は多様なビジネス領域において、ワークショップスタイルを活用したイノベーションで成果を上げている広告代理店である。その場で実際に実践されているワークショップの手法を学びつつ、実際に企業の要望を想定したり、または実際の企業とコラボしながら、ワークショップで活用した企業の課題解決の具体案の作成もおこない、受講者の課題解決能力の向上を目指す。本年度は9月1日(月)～4日(木)の予定で集中講義の形式で行われ、参加企業は未定である。参加企業が決まり次第、manabaの方に連絡を入れる。「実務経験のある教員等による授業科目」
			社会におけるICT、データサイエンス活用A	2	湯浅且敏	学外の企業や組織の協力の元、実社会での問題発見、問題解決の活動を模擬的に体験する活動等を通して、現在、広く教養として求められている数理・データサイエンス・AIに関わる実践力を高める授業です。また、協力企業から、社会に出てから必要となる個人情報の扱いや情報セキュリティについて注意すべきポイントなどを教示していただきます。この講義では、実社会の課題に対して、現状を分析し、解決案を提案する活動を通して、実際の問題解決に活用できる、情報収集力、分析力、問題解決力の獲得を目的とします。このため、文献やインターネット上のデータの収集や分析といった活動を、個人やグループワークで行う演習を中心とした授業となります。（「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目）協力予定組織 国立情報学研究所 株式会社ラック
			地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト 演習A	2	平田京子	この授業は、プロジェクト型の学習を通じて社会連携活動の基礎を学び、実際の社会的課題の解決を図ることを目的としている。全学の学生とともに考えるこの実習授業で、「困っている人に寄り添い、手を差し伸べる」、「それには、どんな風に手を差し伸べるのがベストなのか、自分から考え、適切に行動を開始する」という基礎スキルをつけた後に、社会連携活動の実践につなげよう。プロジェクトテーマ： 日本女子大学で赤ちゃんとお母さんを守るための避難所をみんなで作ろう。度重なる自然災害を克服するために、地域のために新たなアイデアを出して、みんなのために動き出す人が求められている。あなたのアイデアを地域課題解決のために活かしていこう。0歳の赤ちゃんとお母さんを守るため、日本女子大学に設置される文京区の避難所について、大学と区が運営に当てる必要があるが、運営準備はまだ不十分で大学のポテンシャルを生かし、専門を学ぶ大学生の貢献・協働が重要である。運営アイデアをプロジェクト型で思考し、グループで対話しながら実現方法を検討、討議結果を発表する。避難者の生活を再建し、復興へと踏み出すための一歩目が避難所であり、避難者の助け合う場になることが求められている。あなたの学びを、学生同士で話し合いながら、赤ちゃんとお母さんを守ることににつなげていこう。（「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目）文京区・大学と学生が協働する授業であり、アフリカのルワンダ・ブルンジで障害をもつ人（義肢など）を支援する国際的NPOや乳幼児の専門家をゲストに迎えての講義・実習を予定している。
			地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト 演習B	2	中西裕二／田井中慎	本科目では、地域・企業の具体的な課題をテーマとし、その課題解決をPBL型の授業（Project Based Learning）、フィールドワーク、ワークショップスタイルの授業で実施するものである。今回は岩手県釜石市または和歌山県田辺市において、現地でのフィールドワーク、ディスカッションを通して、地域活性化について現場で考え課題解決案をつくり、現場で報告をおこなう（「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目）。
			地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト 演習C	2	坪井望太郎	本講義では、地域課題の整理と、解決に資する視点の提示に向けた取組みとして、自治体や統計ポータルサイトから得られる地域に関するオープンデータ（人口・産業・居住・移動・労働など）をもとに、地理情報システム（GIS）を用いて地域分析を行い、同結果をもとに、地域居住者に向けた研究成果の発表と意見交換を通じた「地域共創（Regional Creative Project）」の技術と方法を学ぶ。 分析作業等は班（TEAM）単位で行い、①「口頭発表資料」と②「展示発表資料」を作成したうえで、地域において実際に発表と質疑応答、意見交換を行う。（「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目）。
		情報基礎処理科目	ICT活用I	2	久保進次	Webデザインの基礎 現在インターネットはデスクトップコンピュータ、タブレット、携帯電話端末等を通じ、様々な情報の伝達に使われ日常生活に根ざしている。情報を受け取る形でインターネットを利用するだけでなく、情報を発信するという事も重要である。 本授業は、インターネットの情報発信技術を学び、またwebページの企画・デザイン・制作を通じ、公開可能なwebページを作成し、インターネットで価値のある情報発信を経験する事を目的とする。（希望により、グループでも個人でも、制作可能。）※授業で製作した作品は、基本的にはwebで公開します。学校や学部のプロモーションに使用されることもありますので、その点についてあらかじめご了承ください。（「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目）
	教養科目	人体の構造と機能及び疾病（遠隔）	2	福本正勝	医学一般の基礎知識を身につけ、医療や福祉の基本的な考え方を理解することを目指しその基盤となる人体の構造や機能についての解説を行う。さらに疾病や障害の内容について、福祉および心理の分野において必要とされることを中心に概略的な解説を行う。この授業では社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師の国家試験範囲を包含した医学知識について主に講義を行うが、医療・健康・食品・運動関係などに興味のある方にも参考になると思われる。（「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目）	
合計単位数			家政学部 文学部 人間社会学部 理学部 国際文化学部 建築デザイン学部 食科学部	37		